

2026年 ますます女性が活躍できる年に

2025年、日本で初となる女性首相が誕生しました。

でも、まだまだ世界各国と比べると、女性の政治家や企業における管理職の割合は低いようです。

そこで今回は近年話題となっている「国際女性デー」に着目してみました。

3月8日は国際女性デー

1904年3月8日にアメリカのニューヨークで女性労働者が婦人参政権を求めてデモを起こしたことがきっかけで、国際婦人年の1975年に国際連合で3月8日を「国際女性デー」として提唱し、やがて1977年の国連総会において、女性の権利と国際平和を祝う日として正式決定されました。

女性の権利を守り、ジェンダー平等の実現を目指すことを目的としています。また、安全と平和、コミュニティや組織における地位の向上に努める女性を称える日となっています。この日は「ミモザの日」と呼ばれ、黄色いミモザの花がシンボルとして親しまれています。

現在は、国際連合が毎年定めるテーマに基づいた催しが世界各地で開催されています。2026年のテーマは「Give To Gain」です。

(International Women's Day
ホームページより)



HAPPY WOMAN FESTA 2026(日本における取り組み)

2017年にスタートした「国際女性デー | HAPPY WOMAN FESTA」は、日本における国際女性デー普及の旗振り役として、これまで全国各地で開催されています。企業・自治体・メディア・生活者が共に取り組む「共創の場」として、多くの出会いや学び、行動を生み出してきました。

そして2026年、HAPPY WOMAN FESTAは10周年を迎えます。

これまで築いてきた「社会的ムーブメント」をさらに進化させ、社会革命へとつながる一歩を踏み出します。

(HAPPY WOMAN® ホームページより)



ミモザの花って？

西洋では春を象徴する色とされている黄色。ヨーロッパでは、黄色いミモザの花は寒く厳しい冬が終わり暖かな春の訪れを告げる「幸せの花」と言われており、女性のシンボルとして多くの人々に愛されています。

ミモザの花言葉には「感謝」「思いやり」「真実の愛」などがあり、「大切な人やお世話になった人に贈る花」として親しまれています。



関連本



『女性の権利と参政権』
ケイ・バーナム/文,
トビー・ニューサム/絵,
杉木志帆/日本語版監修,
相馬奈於/訳
文研出版【児童】



『世界ではじめての女性大統領のはなし』
ラウン・フリーゲンリング/作, 朱位昌併/訳
平凡社【児童】



『リーゼ・マイトナー』
マリッサ・モス/著
中井川玲子/訳
岩波書店【YA】

イベントのお知らせ

※詳しくは図書館ホームページ・館内ポスターをご覧ください。

親子で楽しむ 歌と朗読劇

2026年2月1日(日)14～15時

場所:本館 視聴覚室

定員:40名

申込:1月11日(日)10時～

香音(かのん)による

狂言えほんより「せつぶん」

イギリスの昔話より「トム・チット・トット」

図書館で体験！高野山の森の癒しの空間

2026年2月22日(日)

1回目:13～14時 2回目:15～16時

場所:本館 視聴覚室

定員:各回12名 参加費:500円

申込:2月7日(土)10時～

高野山の『高野六木(こうやりくぼく)』のお話

&

高野山の樹々から採れた希少なアロマオイルを使った

アロマスプレーづくりのワークショップ

Gospel

Harmony for Peace

2026年3月1日(日)14～15時

場所:本館 視聴覚室

定員:30名

申込:2月8日(日)10時～

和ゴスネーションによる

「平和」をテーマにしたゴスペルと
スタッフによる読み聞かせのコラボ

“湯船、つかっていますか？”

日本女性の約7割・男性の約4割が冷え症の自覚を持っているといわれています。現代人はシャワーだけで済ます人も増えていますが、湯船につかるとたくさんの効果が得られます。湯船につかると、体の表面に水圧がかかります。この圧が自然なマッサージ効果を生み、血流促進・むくみの改善に効果的です。ただし、肩までつかると心臓へ負担がかかってしまうため、半身浴がおすすめです。お湯の温度はぬるめで、38～40℃くらいが最も血管が開き、リラックスできる温度です。冷えには熱い方が効果的だと思われがちですが、血管が収縮し、芯まで温まらず冷めるのも早いNGです。また湯船につかると、浮力も作用し腰にかかる体重の負荷は10分の1になります。この効果で強ばっている関節や筋肉が解放され、リラックス効果も得られるのだそうです。

寒さが厳しくなっていくこの時期、冷え症の方もそうでない方も入浴タイムを上手に利用して、冷えを改善してみませんか？



文献：『冷え症を治す64のワザ+α』
渡邊 賀子／著 大手小町編集部／著 保健同人社

図書館スタッフおすすめのこの1冊！



『SISTER “FOOT” EMPATHY』

ブレイディみかこ／著 集英社



ブレイディみかこさんを『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』でご存じの方も多いだろう。中学生の息子の日々を母親目線で描いたエッセイだが、貧困や差別などを身近にあるものとして描いた作品は、課題図書にも選ばれ、大きな話題となった。

同様に、差別や貧困問題を扱った図書は他にも多く見られるが、今回紹介する『SISTER “FOOT” EMPATHY』は、女性たちが生きにくさどどのように戦い、社会に働きかけてきたかを描いたエッセイである。「シスターフッドとは共謀することだ。互いに他者の靴を履きながら、足元から繋がって一緒に企む」とブレイディさんは書く。

今よりもさらに虐げられていた女性たちが、強く、そして時には楽しく、周りを巻き込みながら運動してきたことに驚かされる。その運動がカラーやドレスなどファッションと結びつくのも興味深い。「おしゃれは足元から」とも言われるが、ブレイディみかこさんの言う「エンパシー」は、他者の靴を履くように他者を想像し、つながることだ。

自分たちの足元を見つめ、足元から繋がることで、誰もが歩きやすい道ができていくのかもしれない。



作家紹介 青山美智子



1970年生まれ。愛知県出身。横浜市在住。大学卒業後、シドニーの日系新聞社で記者として勤務。2年間のオーストラリア生活ののち帰国し上京。出版社で雑誌編集者を経て執筆活動に入る。デビュー作『木曜日にはココアを』は第1回宮崎本大賞を受賞し、2021年には『お探しの物は図書室まで』で本屋大賞2位を受賞。作家になるきっかけは、14歳の時、コバルトシリーズ『シンデレラ迷宮』（氷室冴子/著）を読んで面白くて感動し自分も真似して書いてみようと思ったことだった。コバルト大賞に応募しようとして書いてみたが、既定の95枚を書ききれず断念してしまう。その後は努力あるのみと、新人文学賞を目指しひたすら書き続けた。そんななか選ばれた受賞作『木曜日にはココアを』は

新人賞を目指したのではなく、自分が好きなように書けばいいと思いついた作品だった。作品の多くは、読者が共感しやすい「日常の人々」を書いた短篇小说で、「あなたはそこにいるだけで本当に素晴らしい」ということを伝えたい思いで書いており、その思いが読者を惹きつけているひとつである。読後には日常の幸せや、豊かさに気づかせてくれ、そっと悩みに寄り添う優しさに、心が温められる方が多いのでは。忙しい毎日の中で少し立ち止まりたいとき、誰かの心に寄り添いたいときにおすすめしたい。5年連続(2021年～25年)で本屋大賞にノミネートされており、今後の活躍が期待されている。

図書館ライフをもっと快適に♪



予約後の順番予約設定について

上下巻や、シリーズ本を順番に予約したいがすでに予約を完了してしまった…Σ(・ω・ノ)！そんな時でも、本の準備ができるまでは順番予約に変更ができます！今回は予約後の順番予約変更の方法をレクチャーしますよ！



①マイページログインで、貸出券番号とパスワードを入力
「利用照会メニュー」→「予約中一覧」をクリック



②順番予約にする予約中の本を選択（チェックボックスをクリック）して、「受取順指定」ボタンをクリック



③受け取りたい順番に設定し、「受取順指定」ボタンをクリック。予約本を設定した順番で受け取ることができます。

チェックボックスが表示されないものはすでに本の受け取り準備ができていますため順番の変更はできません。



ホームページへはこちらの二次元コード読み取りまたは「高石市立図書館」で検索するとアクセスできます

